

Think Smart Factory 2019 開催概要

2019年11月11日～13日の会期で京都「みやこめっせ」において、Think Smart Factory 2019を開催する。

主催 TSF2019実行委員会

*TSF2019実行委員会とは、Smart Factoryの実現を共通テーマとした業界発展を望む団体で、Canon・富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ・goof・日本HP・Horizon・JSpirits・KONICA MINOLTA・RICOH JAPAN・SCREEN・RESOLOGIC・バリューマシーンインターナショナルの11社で構成される。

運営 ホリゾン・インターナショナル株式会社

開催場所 みやこめっせ(京都市勧業館)

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

開催期間 2019年11月11日～13日

IoTの普及により、いよいよ繋がる時代へと本格的に動き始め、印刷業界においてもその流れは次第に加速を強めている。機械設備を提案・販売するメーカーにおいても、単なる自動化や省人化といった流れではなく、この時代背景を正しく捉えたビジネスそのもののエコシステム提案が求められている。

IGAS2018では市場リーダーとなる9社がホリゾンブース内に設置したSmart Factory Zoneに集結し、ユーザーと共にSmart Factoryの実現に向けたセッションを繰り広げ大きな反響を得た。その熱意を次につなげる取り組みとして、新たにTSF2019実行委員会を結成し、Think Smart Factory 2019を実施開催する。

前述の通り、Think Smart Factory 2019はTSF2019実行委員会という業界をリードするメーカー・ユーザーが共同企画として主催するもので、業界の発展と市場の活性化を目指した展示内容となっている。今回の展示では、会場内全体をワークフローで繋ぎ、自動搬送車やロボット等も取り入れ、実稼働を通してSmart Factoryを体感できる計画を進めている。4000m²の会場内には、ホリゾンのポストプレス機器を中心とした、最終成果物視点で考えるワークフロー構築をキーに、入り口から出口までを実稼働の中で確認することのできるEnd to Endのワークフロー構築へと繋げられることを表現する。また、デジタルだから出来る“オートメーション”、デジタルだから出来る“高画質印刷”といった展示も注目の展示として計画している。



メインシアターによる全体紹介イメージ

現段階での出展社は、Canon・富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ・goof・日本HP・Horizon・JSpirits・KONICA MINOLTA・RICOH JAPAN・SCREEN・RESOLOGIC、ユーザーサイドからは日本写真印刷コミュニケーションズ・ニューブックが参画を計画している。具体的なワークフロー連携と機器構成は今後明確にしていく予定だが、各社が個別のブースを持つ形態ではなく、展示ホール内全体でSmart Factoryをイメージ出来る横の繋がりを重視した配置と内容で計画を進めていく。



ホール内に設置するSmart Factory Zone イメージ

また、IGAS2018時と同様に会場内にSmart Factory Zoneを設置し、3日間で16セッションを同時通訳付きで実施する。

開催にあたり、国内・海外のユーザーの来場を想定し、海外から人気の高い京都を開催の地とした。開催時期が11月11日～13日となるため、京都の紅葉と日本の文化に親んでもらうことも重要な役割としている。京都の初秋を楽しんでいただける早朝の散歩ツアーや懇親会等も計画しており、会場内だけでなくロケーションをまるごと楽しんでいただける企画で進行中だ。

今回が第一回となるが、継続的に認知されるイベントとなることを目標としている。

最新情報は下記ホームページをご参照ください。

<https://thinksmartfactory.com/>

